

科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 2 年 6 月 7 日現在

機関番号：32407

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2017～2019

課題番号：17K06755

研究課題名(和文)長崎の近世町家の特質とその室内意匠

研究課題名(英文)The characteristics of the interior design of the early modern townhouse in Nagasaki

研究代表者

野口 憲治 (NOGUCHI, KENJI)

日本工業大学・建築学部・助手

研究者番号：30337513

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,500,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、長崎の近世町家の特質を明らかにし、新たな日本の近世民家像の再構築を目的とする。特に、シーボルト・コレクションの町家模型の室内意匠に着目し、商種・生業にあわせて分析する。

模型は、細部・平面とも長崎の町家の特徴とよく一致することを指摘した。シーボルトがみた近世長崎には、町を支配する町乙名の役宅、呉服屋や酒屋、醤油屋などの商家、フロヤのなど、多様なレベルの町家が混在していた。また、模型からみた長崎の町家等の座敷意匠には、武士と町人の身分格差が示されていることを指摘した。模型に示された格差は、シーボルトが幕府の規制と当時の長崎の町家の状況の関係を、正確に理解した証であることを明らかにした。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究の特色は、19世紀初めに製作された長崎の町家模型を研究対象としていることである。現存遺構の町家は、歴史的な増改築の結果により当時の様相は失われることが多い。これに対して、模型は、19世紀初めの長崎の町家の室内意匠を正確に示している。従来、町家の室内意匠は、主に現存遺構を中心に検討されてきた。現存遺構は、歴史的増改築の結果であり当時の様相そのものではない。模型の室内意匠と商種・生業をあわせて分析することで、現存遺構では明らかにできなかった座敷意匠を理解することができる。本研究は、長崎の町家の建築的特徴を明らかにし、その基礎を築くものであり、正確な歴史的町並の保存・再生に活用される。

研究成果の概要(英文)：The study aims to clarify the characteristics of the modern townhouses in Nagasaki. In addition, to reconstruct a new image of Japanese modern townhouses. In particular, we focused on the interior design of the Siebold Collection's Townhouse Model and analyzed it according to the type of trade and livelihoods.

The model pointed out that the detail and plane were in good agreement with the characteristics of the Nagasaki's townhouses. In Siebold's view of Nagasaki in the early modern era, where there were mixed townhouses of various levels, such as town headmen residence (Machi-Otona), kimono shops, liquor stores, soy sauce stores, and bathhouse (Furuya). In addition, the interior design of the Nagasaki's townhouses seen from the model shows the status difference between samurai and townspeople.

研究分野：近世町家

キーワード：近世 町家 長崎 町家模型 室内意匠 町並み シーボルト オランダ

様式 C-19、F-19-1、Z-19（共通）

1. 研究開始当初の背景

(1) 研究の学術的背景

本研究の出発点のひとつに、民家形式の風土決定論への根本的疑問がある。気候・風土は民家形式を決定するひとつの要因であっても、唯一の決定要因ではない。本研究で扱う「町家」も同様である。「町家」を説明する用語（土蔵造、船柵造、雁木、板葺石置屋根、虫籠窓など）はきわめて豊富であり、多様な町家形式が歴史的な町並みの重要な構成要素となっている。これらの形式は、近世に骨格が造られ、その蓄積が近代、現代へと受け継がれている。この近世に造られた多様な町家形式は、地域性を示す重要な要素である。形成要因を明らかにすることは、歴史的な町並みを保存する上でも欠かせない視点である。これが研究の出発点である。そこで、新たな町家形式形成論を構築する一つの方法として、西欧人が日本人に製作させた町家の模型に着目した。

(2) これまでの研究成果

19世紀初め、フィリップ・フランツ・フォン・シーボルト（1796-1866）（以下、シーボルト）は、町家の室内意匠が商種・生業や建物の使い方によって異なることに着目し、模型や挿図などに遺した。なかでも町家の建物模型は、外観の特徴ばかりでなく、部屋の用途によって仕上を変え、建具、畳、壁、天井など、町家の室内意匠を正確に表現している¹⁾。また、町家模型のうち、「名主の住まい」に着目し、詳細に検討した結果、長崎の町乙名の役宅をモデルとしたことを指摘した²⁾。さらに、他の模型も長崎の町家をモデルとしており、当時の町家意匠を商種・生業にあわせて検討する事ができる。

2. 研究の目的

本研究は、長崎の近世町家の特質を明らかにし、新たな日本の近世民家像の再構築を目的とする。19世紀初め、長崎出島のオランダ商館に勤務したシーボルトは、日本人とは異なる視点で日本の町家を理解し、模型や挿図、日誌に遺した。なかでも町家の建物模型は、長崎の町家をモデルとし、多様な商種・生業を示している。模型は、外観の特徴ばかりではなく、唐紙で仕上げた天井、壁など、座敷意匠も正確に製作された。本研究では、19世紀初めの長崎の町家の室内意匠を商種・生業にあわせて分析することを目的とする。

3. 研究の方法

(1) ライデン国立民族学博物館における町家模型・絵画史料の調査

ライデン国立民族学博物館（以下、ライデン博）に所蔵されている町家模型の室内意匠を詳細に調査する。シーボルト・コレクションの町家等の模型には、町並みを示す模型と、屋敷や農家などの単独の模型がある。町並みを示す模型を構成する各町家は、異なる商種・生業の町家を複数組み合わせ、3つの町並み模型としている³⁾。本研究では、これらの町並み模型と「屋敷」模型を分析対象とする（図1, 2）。

つぎに、ライデン博に所蔵されている出島絵師川原慶賀が描いた長崎の町家に関する絵画史料と模型を比較する。慶賀が描いた長崎の町家の絵には、様々な職業の町家の室内が描かれている。その様相には、縞縮緬の唐紙が貼られた襖など、模型の襖との共通点を見ることが出来る。それらの絵画史料と模型を比較検討し、部屋の使い方や職業との対応関係を検討する。

(2) 絵画史料に描かれた同時代の町家との比較検討

『長崎名所図会』や『崎陽諏訪明神祭祀図』などに描かれた長崎の町家と模型を比較し、建築的特徴を明らかにする。

(3) 現存遺構および写真との比較

長崎市内に現存する町家の建築的特徴と模型を比較する。また、幕末から明治期に撮影された写真から町家の建築的特徴を抽出し模型と比較する。

4. 研究成果

(1) シーボルトがみた近世長崎の町並み

シーボルトは、出島オランダ商館付医師としての役務の他に、オランダ政府から日本の博物学的・民族学的調査研究と日蘭貿易の再検討の使命を与えられていた⁴⁾。来日から僅か3ヶ月後には、日本博物館の実現に向けての決意を述べている⁵⁾。また、来日から2年後に、出島から東インド総督の秘書官に宛てた報告書には13の調査項目がある⁶⁾。

つまり、日本を総合的に理解するには、幅広い分野の調査研究をする必要があると理解した。これは、彼の博物学的調査の手法であった。

彼が民族学的コレクションの収集を本格的に始めたのは、文政9（1826）年の江戸参府に同行した頃からである⁷⁾。また、離日後に作成した目録では、コレクションを、4つの主項目に分け、さらに11の科目に分類している⁸⁾。その第3項目が、模型の項目である。

第3項目：模型 第7から第9科目に分類

7：人の生活を支えている建物あるいは道具の模型

8：家具、そして農機具、漁具などの模型約200点

9：約500点の機材と道具の模型

第3項目をみると、建物のみならず家具や道具類が数多く収集されている。彼は、原寸大で持ち帰ることが困難な建物は、模型が適していると考えた。家具や道具類も、網羅的に収集す

るために、実物を縮小した模型を選択した。また、単純に日本の建物模型を収集したのではなく、「人の生活を支えている建物」という目的を持っていた。つまり、日本の町場を説明するためには、日本人の生活を理解した上で、それを支えている建物が必要と考えた。

町並み模型を日本人の生活の視点から分析すると、A社会、B生活、C風俗に大別できる。さらに、B生活は、I服飾品、II食品、III日用品に分類できる。

A社会→「名主の住まい」、「番人小屋」

B生活→I服飾品：「呉服屋（絹織物）」、「呉服屋（絹織物）」

II食品：「醤油屋」、「酒屋」、「魚屋・菓子屋」

III日用品：「日雇い人の家」⁹⁾

C風俗→「フロヤ」

A社会は、「名主の住まい」と「番人小屋」を組み合わせることで、町の支配構造を伝えている。彼は、江戸の木戸について、『日本』で説明しており¹⁰⁾、治安維持が町人に委ねられていることまで、理解していた。

B生活は、生活に必要なものとして、服飾品・食品・日用品を扱う商家を示している。

C風俗は、商売としての「フロヤ」が、町場に存在していたことを伝えている¹¹⁾。

彼は、日本の社会や風俗、衣食住を高いレベルで理解しており、それを西欧へ伝えるために、町並み模型（図1、①～③）を製作させた。模型には、反物や酒樽、醤油樽など生業を示す商品（模型）を陳列しており、彼の理解力の高さを知ることができる。また、多種の町家を、混在させて町並みを示している。

町並み①→社会（町の支配）＋生活（食品）

町並み②→生活（食品）＋生活（服飾品）＋生活（日用品）

町並み③→生活（服飾品）＋生活（食品）＋風俗

模型は、商種・生業によって座敷意匠が異なり、職業や身分によって格式の表現が異なる（表1、2）。つまり、町並み模型は、長崎の町場の構造・様相を示しており、それに対応する格式が表現されている。

町並み①「名主の住まい・醤油屋・番人小屋」は、長崎の町の支配構造を示している（「名主の住まい」、「番人小屋」）。また、町場の中で、もっとも格式の高い町家が含まれていることを示している（「名主の住まい」、「醤油屋」）。

町並み②「酒屋・呉服屋（絹織物）・日雇い人の家」は、日常生活で使用する商品を扱う店舗を組み合わせている。これらの商種・生業の建物は、格下の格式表現である。

町並み③「呉服屋（絹織物）・魚屋・菓子屋・フロヤ」は、格上から格下までの建物を組み合わせている。つまり、長崎の町並みには、格上（「呉服屋（絹織物）」）から格下（「魚屋・菓子屋」）までの商種・生業の建物が混在していたことを示している。また、町場の風俗の代表的なものとして「フロヤ」を取り上げている。

（2）町家模型からみた長崎の町家の座敷意匠

①「屋敷」と「名主の住まい」のモデルとなった建物

「屋敷」（図3）は、シーボルトの名著『日本』（以下、『日本』）に外観の挿図が掲載されている。挿図の名称は、「EEN HEERENHUIS & EIN HERRENHAUS」と記されており、「領主の邸宅」と翻訳することができる¹²⁾。「領主」という名称は、長崎の町を支配した人物、例えば、長崎奉行が考えられる。平面図をみると玄関が無く、正式な対面のための建物とは考えにくい（図2「屋敷」）。また、『日本』に掲載された配置平面を示す挿図によると、塀で囲まれた広い敷地に建っており（図4）、郊外の別荘と考えるのが妥当である。

「名主の住まい」は、長崎の町乙名の役宅をモデルとした¹³⁾。町乙名は、町人の中でも上位の地役人であり、1町につき1人置かれた¹⁴⁾。

②床の間のある座敷の意匠からみた格式表現

床の間がある座敷の意匠を、表3に示す。まず、長押に着目する。

「屋敷」の床の間のある2つの座敷をみると、室⑦（図5）と室⑩（図6）は長押を廻した部屋である。いっぽう、町家の模型には、長押を廻した部屋は存在しない。

書院についてみると、「屋敷」の室⑦には平書院が付くが（図5）、町家の模型にはない。床脇をみると、「屋敷」の室⑦の床脇には落棚が付き（図5）、室⑩には違棚と天袋があるが（図6）、町家の床脇は、天袋に限られる（図7、8、9、10）。

つまり、長押や書院など書院造の基本部位は「屋敷」（武士）に限られ、町家（町人）にはない。

天井をみると、竿縁天井は「屋敷」（図5、6）、「名主の住まい」（図7）、「醤油屋」（図8）にあり、屋敷と町家のどちらでも使われた。いっぽう、「呉服屋（絹織物）」は唐紙を貼った天井（図10、11）、「酒屋」は根太天井である（図9）。

襖をみると、「屋敷」「名主の住まい」「醤油屋」「呉服屋（絹織物）」の床の間のある座敷では、絵が描かれた襖が使われる。さらに、襖や障子の框をみると黒く塗られており、屋敷から町家まで幅広く使われている。また、図2に示すように、1階の座敷にある襖の多くは唐紙貼¹⁵⁾であり、これも屋敷から町家まで広く使われている。

屋敷と町家では、長押・釘隠・棚・書院など書院造の基本部位については身分格差が示されている。いっぽう、天井の仕様、襖絵か唐紙か、框の黒塗などの細部意匠については、格差はみられない。

③近世長崎の家作制限令

幕府は、幕府直轄領である長崎に、町家の家作に関する町触を、寛文8年（1668）に出した¹⁶⁾。これによると、町人の家屋では長押、付書院、床框や建具を漆で塗る事、唐紙の張付、遊山船や金銀の紋の絵を描くことなどを禁じている。

町家等の模型をみると、長押や書院は「屋敷」に限られる。いっぽう、町家の模型には、長押や書院はみられず、禁令はよく守られている。しかし、禁止されていたはずの唐紙を貼った襖、絵が描かれた襖、襖や障子の框の黒塗などは、町家でも使われている。また、「呉服屋（絹織物）」の唐紙を貼った天井は、呉服屋だけにみられる特徴である¹⁷⁾。扱っている商品（絹織物）の性質上、接客空間を美しくみせる必要があったためであろう。

長崎の町人は、長押を廻す正式な書院造の意匠については禁令を遵守したようにみえる。しかし、唐紙の貼付、襖や障子の框の黒塗など、建物の基本構造から離れた部分に関しては禁令に従わなかった。それは、接客相手に応じた質のある座敷意匠を必要としたためである。

(3) おわりに

シーボルトがみた近世長崎には、町を支配する町乙名の役宅、呉服屋や酒屋、醤油屋などの商家、フロヤのなど、多様なレベルの町家が混在していた。つまり、長崎の町の支配構造、衣食住、風俗を理解していた。また、近世長崎の町家は、商種・生業、階層によって室内の意匠、格式表現が異なる。彼は、日本の町場を伝えるために、多種多様な商種・生業を取捨選択し、その様相を一目で理解できるよう複数の町家を組み合わせる町並み模型を製作させた。

模型からみた長崎の町家等の座敷意匠には、武士と町人の身分格差が示されている。長押は、武家の住宅様式である書院造を担保する重要な指標であり、それが模型の違いとして表現された。しかし、19世紀初めの町家で、長押を廻した座敷は珍しくない。つまり、模型に示された格差は、シーボルトが幕府の規制と当時の長崎の町家の状況の関係を、正確に理解した証である。



図1 町並み①「S1 名主の住まい・醤油屋・S2 番人小屋」 町並み②「S3 酒屋・呉服屋（絹織物）・日雇いの家」 町並み③「S4 呉服屋（絹織物）・魚屋・菓子屋・S5 フロヤ」

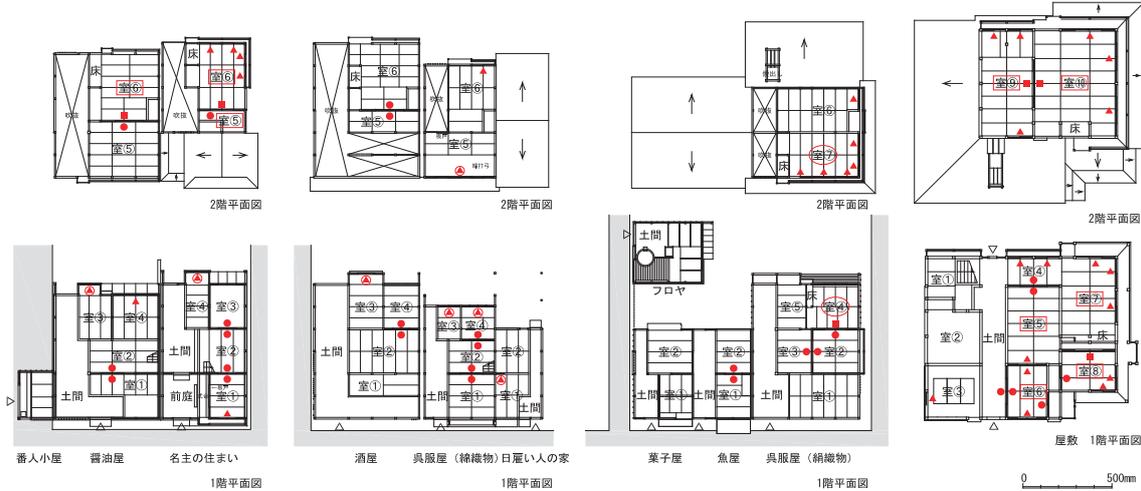


図2 町並みを示す模型と「屋敷」模型の平面図

表1 座敷意匠の格式表現による格上格下の模型

模型の名称	階数	室番号	用途	長押	釘廻	欄間	天井	室の間	書院	襖絵	唐紙仕上の襖	襖の框	障子の框	床壁	床板	床柱	床框	床塗	
屋敷	2階	①	長押	有	有	有	草縁	-	-	滝・松・人物	-	-	-	黒塗	塗壁	板	面皮	素木	漆
	2階	②	釘廻	有	有	有	草縁	-	-	川に桃機、松にイカダ	-	-	-	黒塗	塗壁	板	面皮	素木	漆
	1階	③	欄間	有	有	有	草縁	-	平書院	-	-	-	-	黒塗	塗壁	板	面皮	素木	漆
名主の住まい	1階	④	草縁天井	-	-	-	草縁	-	-	風景画	-	-	-	黒塗	塗壁	板	面皮	素木	漆
	2階	⑤	主室	-	-	-	草縁	-	-	紅梅	-	-	-	黒塗	塗壁	板	面皮	素木	漆
	2階	⑥	前室	-	-	-	草縁	-	-	龍・文鳳・松	-	-	-	黒塗	塗壁	板	面皮	素木	漆
醤油屋	2階	⑦	主室	-	-	-	小壁表し	-	-	風景画	-	-	-	黒塗	塗壁	板	面皮	素木	漆
	2階	⑧	前室	-	-	-	小壁表し	-	-	風景画	-	-	-	黒塗	塗壁	板	面皮	素木	漆
	1階	⑨	主室①	-	-	-	唐紙	-	-	紅菜	-	-	-	黒塗	塗壁	板	面皮	素木	漆
呉服屋 (絹織物)	2階	⑩	主室②	-	-	-	唐紙	-	-	紅菜	-	-	-	黒塗	塗壁	板	面皮	素木	漆
	2階	⑪	主室③	-	-	-	唐紙	-	-	紅菜	-	-	-	黒塗	塗壁	板	面皮	素木	漆
	2階	⑫	前室	-	-	-	小壁表し	-	-	風景画	-	-	-	黒塗	塗壁	板	面皮	素木	漆
酒屋	2階	⑬	主室	-	-	-	一枚板	-	-	風景画	-	-	-	黒塗	塗壁	板	面皮	素木	漆
	2階	⑭	前室	-	-	-	一枚板	-	-	風景画	-	-	-	黒塗	塗壁	板	面皮	素木	漆
	1階	⑮	主室	-	-	-	小壁表し	-	-	風景画	-	-	-	黒塗	塗壁	板	面皮	素木	漆
呉服屋 (絹織物)	2階	⑯	主室	-	-	-	小壁表し	-	-	風景画	-	-	-	黒塗	塗壁	板	面皮	素木	漆
	2階	⑰	前室	-	-	-	小壁表し	-	-	風景画	-	-	-	黒塗	塗壁	板	面皮	素木	漆

凡例：●唐紙仕上の襖 ■襖絵 ▲障子 △障子 (框が素木) ※記号無しは、すでに紛失し建具が失われている。室名の囲み線：□草縁天井 ○唐紙天井 ※囲み線無しは、1枚板で天井を表現または小屋表し

表2 座敷意匠にみる町家模型の格式表現

模型の名称	階数	室番号	用途	長押	釘廻	欄間	天井	室の間	書院	襖絵	唐紙仕上の襖	襖の框	障子の框	床壁	床板	床柱	床框	床塗	
屋敷	2階	①	2階主室	有	有	有	草縁	-	-	滝・松・人物	-	-	-	黒塗	塗壁	板	面皮	素木	漆
	2階	②	2階前室	有	有	有	草縁	-	-	川に桃機、松にイカダ	-	-	-	黒塗	塗壁	板	面皮	素木	漆
	1階	③	1階主室①	有	有	有	草縁	-	平書院	-	-	-	-	黒塗	塗壁	板	面皮	素木	漆
名主の住まい	1階	④	1階主室②	-	-	-	草縁	-	-	風景画	-	-	-	黒塗	塗壁	板	面皮	素木	漆
	1階	⑤	前室	-	-	-	草縁	-	-	風景画	-	-	-	黒塗	塗壁	板	面皮	素木	漆
	2階	⑥	主室	-	-	-	草縁	-	-	紅梅	-	-	-	黒塗	塗壁	板	面皮	素木	漆
醤油屋	2階	⑦	前室	-	-	-	草縁	-	-	風景画	-	-	-	黒塗	塗壁	板	面皮	素木	漆
	2階	⑧	主室	-	-	-	小壁表し	-	-	風景画	-	-	-	黒塗	塗壁	板	面皮	素木	漆
	1階	⑨	主室①	-	-	-	唐紙	-	-	紅菜	-	-	-	黒塗	塗壁	板	面皮	素木	漆
呉服屋 (絹織物)	2階	⑩	主室②	-	-	-	唐紙	-	-	紅菜	-	-	-	黒塗	塗壁	板	面皮	素木	漆
	2階	⑪	主室③	-	-	-	唐紙	-	-	紅菜	-	-	-	黒塗	塗壁	板	面皮	素木	漆
	2階	⑫	前室	-	-	-	小壁表し	-	-	風景画	-	-	-	黒塗	塗壁	板	面皮	素木	漆
酒屋	2階	⑬	主室	-	-	-	一枚板	-	-	風景画	-	-	-	黒塗	塗壁	板	面皮	素木	漆
	2階	⑭	前室	-	-	-	一枚板	-	-	風景画	-	-	-	黒塗	塗壁	板	面皮	素木	漆
	1階	⑮	主室	-	-	-	小壁表し	-	-	風景画	-	-	-	黒塗	塗壁	板	面皮	素木	漆
呉服屋 (絹織物)	2階	⑯	主室	-	-	-	小壁表し	-	-	風景画	-	-	-	黒塗	塗壁	板	面皮	素木	漆
	2階	⑰	前室	-	-	-	小壁表し	-	-	風景画	-	-	-	黒塗	塗壁	板	面皮	素木	漆

表3 床の間のある座敷の意匠 凡例 - : 無し △ : 不明 × : 紛失

模型の名称	階数	室番号	主な室内意匠										床の間の意匠											
			畳	畳の種類	畳の色	壁	長押	釘廻	欄間	天井	書院	襖絵	唐紙仕上の襖	襖の框	障子の框	床壁	床板	床柱	床框	床塗				
武士	屋敷	1階	①	有	い草	紺色	-	色土壁	有	有	有	草縁	平書院	×	×	×	黒塗	塗壁	板	面皮	素木	漆		
		2階	②	有	い草	紺色	紺色	色土壁	有	有	有	草縁	-	滝・松・人物	-	黒塗	黒塗	綺羅模様	×	面皮	黒塗	塗壁・天袋欄に絵		
町人	名主の住まい	2階	⑥	有	花菱屋風	紺色	紺色	色土壁	-	-	有	草縁	-	紅梅	-	黒塗	黒塗	水色地に白雲	板	面皮	素木	天袋欄は金色		
		2階	⑥	有	綺羅模様	×	紺色	色土壁	-	-	-	草縁	-	鶴・太陽・松	-	黒塗	×	面皮	素木	天袋欄は金色				
		1階	④	有	花菱屋風	紺色	紺色	色土壁	-	-	-	唐紙	-	紅菜	-	黒塗	黒塗	塗壁	板	面皮	素木	天袋欄は金色		
町人	呉服屋 (絹織物)	2階	⑦	有	市松模様	紺色	紺色	色土壁	-	-	-	唐紙	-	紅菜	-	×	×	×	黒塗	縮緬織	△	面皮	素木	天袋欄は金色
		2階	⑦	有	市松模様	紺色	紺色	色土壁	-	-	-	唐紙	-	紅菜	-	×	×	×	黒塗	縮緬織	△	面皮	素木	天袋欄は金色
		2階	⑥	有	市松模様	紺色	紺色	色土壁	-	-	×	一枚板	-	-	-	-	-	草花模様	黒塗	×	波模様	△	面皮	素木



図3「屋敷」模型

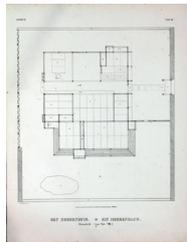


図4「屋敷」の配置平面図
(シーボルト『日本』(ライデン国立民族学博物館所蔵))



図5「屋敷」模型室⑦



図6「屋敷」模型室⑩



図7「名主の住まい」模型室⑥



図8「醤油屋」模型室⑥



図9「酒屋」模型室⑥



図10「呉服屋(絹織物)」模型室⑦



図11「呉服屋(絹織物)」模型室④

注

- 1) 野口憲治・波多野純「ライデン国立民族学博物館所蔵町家模型の特質 ライデン国立民族学博物館所蔵町家模型からみた日本の近世町家 1」日本建築学会計画系論文集 733号, 2017年3月, pp.757-766
- 2) 野口憲治・波多野純「シーボルト町家模型のモデルは長崎の町家 - 西欧人の見た近世町家の特質と地方性の研究 (10) -」2017年度日本建築学会大会学術講演梗概集 建築歴史・意匠, pp.37-38 2017年
- 3) 模型は、当初群であったものが分割されていたため、シーボルト『日本』に掲載された町並みの挿図や模型の痕跡から判断して、3つの町並みに分類した。
- 4) 石山禎一『シーボルトの日本研究』吉川弘文館, 1997年
- 5) 注4) 前掲書
- 6) 注4) 前掲書によると「1. 日本の宗教 2. 風俗・習慣 3. 法律および政治 4. 農業 5. 所得および税 6. 地理および地図 7. 芸術および学問 8. 言語 9. 自然研究 10. 薬草学 11. 珍現象 12. 職員関係 13. 会計」とある。
- 7) マティ・フォラー「ライデン国立民族学博物館におけるシーボルト・コレクションについて」(『シーボルト父子のみた日本 生誕200年記念』ドイツ-日本研究所, 1996年)
- 8) 注7) 前掲書
- 9) 店先には、ぼったり床几が取り付けいていた痕跡があり、何らかの商品を陳列していた。
- 10) シーボルトは「矢来をめぐらした番所があり、木の門【木戸】で仕切られていた。」と述べている。齋藤信・金本正之訳「シーボルト『日本』第3巻」, 雄松堂書店, 1978年 ※【 】内は筆者による注記。
- 11) 野口憲治・波多野純「ライデン国立民族学博物館所蔵「フロヤ模型」について - 西欧人の見た近世町家の特質と地方性の研究 (9) -」2016年度日本建築学会大会学術講演梗概集 建築歴史・意匠, pp.503-504, 2016年
- 12) 「EEN HEERENHUIS」(オランダ語)、「EIN HERRENHAUS」(ドイツ語)。オランダ語は『オランダ語辞典』講談社, 1994年、ドイツ語は『独和辞典』郁文堂, 2006年を用いて翻訳した。
- 13) 野口憲治・波多野純「シーボルトがみた近世長崎の町家・町並み - 西欧人の見た近世町家の特質と地方性の研究 (11) -」2018年度日本建築学会大会学術講演梗概集 建築歴史・意匠, pp.605-606, 2018年
- 14) 長崎市史編さん委員会『新長崎市史 第二巻近世編』長崎市, 2012年, pp.256-261
- 15) 唐紙とは、木版で連続模様を刷った紙を指す。
- 16) 安高啓明『近世長崎司法制度の研究』思文閣出版, 2010年
- 17) 町家模型にある唐紙を貼った天井は、上野寛永寺菱の間(幕末)、堀江家(和歌山県橋本市、江戸後期、御船達雄・平山育男・梅嶋修・西澤哉子「橋本における離れ座敷の検討 和歌山県橋本市中心市街地の町と町家の調査研究 その142」(日本建築学会大会学術講演梗概集, 2015年9月, pp.281-282))などいくつか例がある。江戸時代後期には一般的であったが、近代にはほとんど見られない。唐紙を貼った天井は、失われた室内意匠の一つである。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計0件

〔学会発表〕 計3件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 野口憲治・波多野純
2. 発表標題 シーボルト町家模型からみた長崎の町家の座敷意匠 - 西欧人の見た近世町家の特質と地方性の研究 (12) -
3. 学会等名 日本建築学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 野口憲治・波多野純
2. 発表標題 シーボルトがみた近世長崎の町家・町並み - 西欧人の見た近世町家の特質と地方性の研究 (11) -
3. 学会等名 日本建築学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 野口憲治・波多野純
2. 発表標題 シーボルト町家モデルのモデルは長崎の町家 - 西欧人の見た近世町家の特質と地方性の研究 (10) -
3. 学会等名 日本建築学会
4. 発表年 2017年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

ライデン国立民族学博物館に提出した調査報告書

Kenji Noguchi
House models at Museum Volkenkunde in Leiden -Photo list of survey results-
2019.03.06

Kenji Noguchi
TempeI models at Museum Volkenkunde in Leiden -Photo list of survey results-
2020.03.09

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協 力者	コック ダン (Kok Daan)		ライデン国立民族学博物館 東アジアコレクション学 芸員